



うぐいすの「哺育」 山の手倶楽部 大西忠男氏

協和のひびき ■ ふれあい

ふれあい

ここへ来てすぐの頃、車椅子用のリフトつきバスに乗りましたら、ふれあいの里から車椅子の人が乗って来ました。乗る為に変な時間がかかります。はじめて乗り合わせたらしい男の人が車椅子に近づいて手を貸そうとしました。すると横に居た人が「他の人が手伝うと中々自分で出来るようにならんし、手伝わないほうがいいんですよ」と云い、「ああ、成程そういうもんか」と皆静かに待っていました。その時、車内の乗客は皆穏やかな表情で、至福の時間を味わって居る様でした。「ああ、桂坂に来てよかった。本当に一人一人の心と心が通いあって、法律による強制ではなく、生活の中で自然に人権を尊重し優しく暮らすことのできる町」そういう感動が僕の胸を満たして居ました。

雨田光示氏「桂坂に住んで」(『桂坂』30号)

人とのふれあい——それは地域でも、学校でも、グループなどでも見られます。私たちは常に何かと何らかの関わりを持ちつつ日々生活しています。

この桂坂学区では、この「ふれあい」を大切に一年の行事が行われています。自治連合会主催であったり、各町内独自、あるいは各種団体、たとえば体育振興会、社会福祉協議会、子供会の主催行事であったりします。他の地域からこの桂坂学区に移り住んで、知らない者同士が何かを縁に知り合いになり、地域に自然に馴染んでいく、この過程で「ふれあい」の手助けをしてくれるのが、こうしたいろいろな行事ではないでしょうか。さらに、そこに参加することでお互い知り合いになり、住民としての地域への愛着も自然に生まれてくるのではないのでしょうか。

コミュニケーション豊かなまちを自分たちの手でつくってみたいものです。将来に向けていま何が望まれているのか、創立10周年の節目を期に考えてみたいと思います。

私たちの街を美しく

統一ふれあいクリーンデー

学区創立10周年のクリーンデー

はじめの頃

桂坂の「クリーンデー」は、1988(昭和63)年4月、桂坂で一番先にできたかえで自治会を皮切に、この清掃活動は徐々に広まって行きました。1989(平成元)年の桂坂学区自治連合会の発足とともに全域で実施しようという気運が高まり、「私たちの町を美しく」という願いを実現するために、1990年11月、秋の「桂坂統一ふれあいクリーンデー」と銘うって第1回が実施されました。

これは学区全体で取り組むころみで、隣の自治会との「ふれあい」もでき、和やかな雰囲気の中でその成果を上げることができました。その後は毎年、春秋2回、5月と11月の第2日曜日に実施することになり、今や桂坂の伝統行事の一つとして定着し、学区創立10周年の秋で19回となりました。

当初は、「隣近所の名前も顔もわからんので、街のゴミ拾い、草抜きをやりもって街を綺麗にしながら顔馴染みになる」(広報『桂坂』7号、松尾隆夫氏)という、「ふれあい」をかねてクリーン作戦は始められました。

その後、著しい人口の増加に伴い、空き地には粗大ゴミが放置され、公園にはペンキの落書き、犬の糞の放置、また、外部からは夜景を楽しむ若者が車で乗り入れて食べカスやビニール袋、ビン、缶などを捨て置くといった由々しい事態が生じ、自然豊かで、きれいな私たちの街の印象が甚だしく損なわれようとしています。10回目からは今まで手の回らなかった放置大型ゴミの収集も始まりました。



参加する洛西高校生

この行事は学区全体の統一を謳いますから、参加団体には次の各団体が含まれています。各団体においては、趣旨をくんでそれぞれの日に清掃を行っています。

大枝中学校・桂坂小学校・桂坂保育所・児童館・西養護学校・ふれあいの里療護園・更正園・授産園・特別養護老人ホーム沓掛療・日文研・西洋環境開発・住宅生協

統一ふれあい クリーンデー

年二回の、今年最後の統一クリーンデー 西京区誕生二〇周年記念行事の一環として、多くの方々の参加をいただきました。

先月の『桂坂』三五号で「統一ふれあいクリーンデー」の歴史について、かえで自治会が環境美化活動として始められ、桂坂全域で実施しようという機運が昂まり、「統一ふれあいクリーンデー」の誕生となったことが書かれていました。

今日、参加しておられる方々の生の声をインタビューさせて頂き、大変感動いたしました。桂坂を美しい街にしようという、愛を感じたからです。今回は、その声を是非お知らせしたいと思えました。

●新しく越してきて、ふれ

●二回よりも、三回に。

●春夏秋冬の四回がよい。

●まだまだ沢山のご意見をいただき、多くの方が桂坂を愛しておられることを知り

●お金で得ることのできない人と人とのふれあい、子どもたちとのふれあいを大切にして、街を美しくする

●子どもたちの参加が少ない。

●子どもたちが楽しく参加できる方法を考えたらどう

●うか。その中で落葉のシーズン、落葉でさつまいもを焼き、子どもたちの親睦を計画するのも楽しいのではないかと。

●パークプラザ公園は若い学生さんが集まり、空き缶を散らかし、ペンキで落書きするなど、公園は

●ないほうがよい。

●お掃除をしながらご近所の方たちとおしゃべりできるのがとても楽しい。

●春夏秋冬の四回がよい。

●まだまだ沢山のご意見をいただき、多くの方が桂坂を愛しておられることを知り

●お金で得ることのできない人と人とのふれあい、子どもたちとのふれあいを大切にして、街を美しくする

●子どもたちの参加が少ない。

●子どもたちが楽しく参加できる方法を考えたらどう

●うか。その中で落葉のシーズン、落葉でさつまいもを焼き、子どもたちの親睦を計画するのも楽しいのではないかと。

●パークプラザ公園は若い学生さんが集まり、空き缶を散らかし、ペンキで落書きするなど、公園は

●ないほうがよい。

●お掃除をしながらご近所の方たちとおしゃべりできるのがとても楽しい。

編集委員
柴田富佐子

広報『桂坂』36号 1996.11.25

さくら自治会のクリーンデー

最も東の端にあるさくら自治会は、市道 100号線沿いにその区域が南北に分断される変則的な自治会です。

京都タワーを中心にして市内を一望することができ、特に夜間ともなれば百万ドルの夜景が楽しめる、いわば景勝の地なのですが、いかんせん、自治活動や文化活動には不可欠の自治会館がなく、発足後に購入した備品（テント、防災道具等）の保管場所がありません。また児童公園もありません。しかし、これら多くの課題をかかえながら、自治会活動は年を重ねるごとに活発になっています。これには会員の皆さんの協力も見逃せません。1996（平成8）年4月に桂坂学区で11番目の自治会として発足した当初から、年6回実施しているクリーンデーには、参加者も多く、小さい子たちを連れて家族ぐるみで参加される微笑ましい光景や、クリーンデーは「皆勤賞」という方も見うけます。これは、会員の皆さんの環境美化に対する意識の高さのしからしめるところでしょう。

自治会員同士のコミュニケーションは着々と進み、人の輪も広がり、交流も深まっています。

「環境美化」に関する表彰

1992年5月 かえで自治会

「美しいまちづくり・清潔な環境づくり」の功績を称えられ「市民憲章推進者」として表彰される。

1997年6月28日 かえで自治会・あかしあ自治会

「京都府環境保全功労者」として表彰される。

1999年5月31日 けやき自治会

「環境美化」への貢献で「西京区市民憲章推進者」として表彰される。

昨今、人と人とのふれあいが希薄になりつつあるといわれます。私たち住民が協力して、明るく健全で、生活しよいまちを目指すならば、年2回、街の美化のために総出で、自ら汗を流し、草をひきながら語り合う機会を持つことも必要です。

街をきれいにすることは、生活環境の向上や維持をはかり、美化意識を高めるのに役立つばかりでなく、この桂坂で育つ子どもたちによりよい環境を残すことにもなって誠に意義深いものがあると思います。

近所の方との「ふれあい」を深め、大切にしつつ桂坂の街を美しく快適な生活空間として維持して行きましょう。



つばき自治会のクリーンデー

つばき自治会の街並みは、桂坂小学校の南々西の方向に在り、センター街の北と西に面しています。ちょうどまちの中を石畳の道が通って南北を分けていますが、プラザパークや南北に走る緑道もあって、緑の多いところですよ。

つばき自治会では、統一クリーンデーの日以外に7月、8月、9月、3月に独自のクリーンデーを設けています。

夏は雑草を抜いたり、緑道などの伸びすぎた枝を切り、秋は落ち葉を集め生活空間の美化と維持に精を出します。また、夏祭り前には特に班長さんを中心に、祭りの舞台となるプラザパークを重点的に清掃しています。

会員相互の親睦と、美しい街並みを住民の手で守るために実施されるこの数回のクリーンデーでは、ひと汗かいた後「お疲れさま！」と声を掛け合いながら缶ジュースやお茶で喉を潤し、お決まりの世間話。しかも、さわやかな気持ちになり、頑張ったという満足感が味わえます。

この年に数回、清掃に共同で参加する場合は、お互いに顔を見知る格好の機会であり、コミュニティの活性化にもつながるはずのものです。

桂坂の夏まつり

桂坂の「夏まつり」は年間の自治会活動の中でも最も大きなイベントです。

桂坂最初の夏祭りは1987（昭和62）年、西洋環境開発が主催して西友ストア前の広場で行われました。

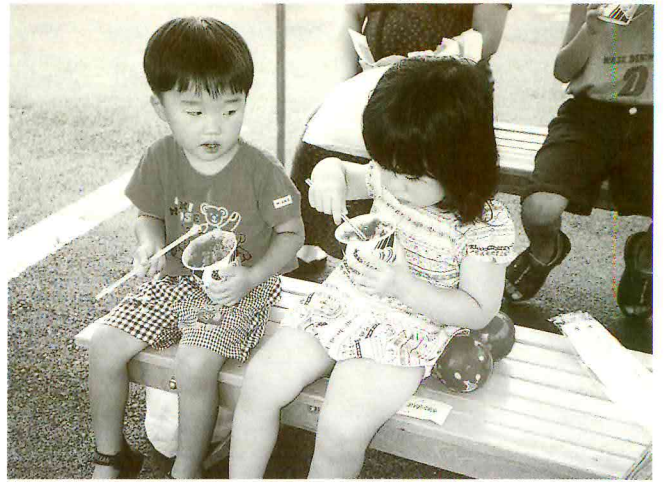
自治会主催の祭りとしては、かえで自治会としらかば自治会が、発足した1988（昭和63）年にそれぞれ独自に夏祭りを実施したのが最初です。その後、新たに発足した自治会を含め各自治会は、自治連合会の誕生とともに情報を交換したり、合同開催を模索したりしていきますから、夏祭りも年々盛大になります。しかし、7自治会の連合となった1991（平成3）年8月にはまだ個々別々に、3日に分かれて最寄りの児童公園で開催しています。



統一夏まつり

開催日を統一した夏祭りが実現したのは1994（平成6）年の夏で、8自治会が参加しました。学区の創立10周年を迎えた1999（平成11）年の夏は、その春発足したくすのき自治会を含む13自治会が統一夏祭りを挙行了しました。

各自治会では、祭りの8月まで数カ月に及ぶ準備期間に役員会を何回も開き、前年度を参考にしつつ論議を重ね、構想を練ります。このようにして、趣向を凝らした、創意あふれるその年の夏まつりは行われ、子どもも大人も夏の夜の賑わいの中で時を忘れます。祭りを楽しむ人も運営に当たる人も一体となるこの祭りの中で、人と人とのつながりが自然に生まれ、そのつながりがまた自治会を支える力ともなっています。



楽しみにする子どもたち

子どもたちにとっても、夏祭りはとても待ち遠しい催しとなっているようで、中にはゆかた姿に身をつつみ、顔より大きな綿菓子を片手にはしゃぎ回る子どももいて、どれほど祭りを楽しみにしているかがうかがえます。

新しい土地に移り住み、顔も知らない頃から、回を重ねる度に工夫を凝らして定着させた夏まつりを、自分たちでつくった祭りとして楽しんでいる自治会もあります。

テレビやインターネットなど居ながらにして簡単に情報が得られ、楽しめる昨今は、近所づき合いも疎遠になりがちです。しかし、年に一度とはいえ夏祭りは、日ごろ交わることの稀な人とも、年齢を超えて語り合うことができます。子どもたちは工作、ゲーム、クイズ大会、紙芝居、子ども神輿、盆踊り、サッカー。大人たちには焼きそばにカレー、おでんにビールと、舌づつみを打ちながら談笑できる、格好のふれあいの場です。



何年か前、O-157の流行で食べ物を自粛した年もありました。一昨年は和歌山カレー事件で気を遣いました。しかし、どの自治会も中止することなく祭りは行われました。大人も子どもも祭りを楽しむ心がそうさせたのでしょうか。



京の夏まつり

京都には夏祭りというと祇園祭があります。この伝統行事は、今から千百年ほどまえ大流行した疫病を払うべく祈願をした祇園会に始まるといわれていますが、この山鉦巡行をハイライトとする約1ヶ月に及ぶ祭りを支えてきた町衆の力は相当なものです。

また、8月16日に「大文字五山送り火」で精霊をふたたび冥界に送った後、京都の町中では昔から地蔵盆という、やはり夏を彩る風物詩として子どもの生活に密着した祭りの日を迎えます。

お地蔵さんの周りには親が子の幸せを祈って名前を記した提灯が吊され、大人も子どもも2日間、お地蔵さんのところにぎやかに集い、昔の遊びや話を時を忘れます。



親睦と活性化

年々、自治会ごとに創意工夫の見られる、特色ある夏祭りが行われます。これも役員の方だけでなく、町内の方々の協力なしにできるものではありません。桂坂の「町衆」の力発揮といえるのではないのでしょうか。終わったときのすがすがしきは格別です。親睦の情が生まれ、連帯感もでき、ひいては桂坂学区の活性化にもつながっているのは確かです。町内の祭りの雰囲気など微妙に違ったりしておもしろく、いろんな自治会の夏まつりをハシゴするのも楽しいものです。これも「統一夏まつり」だからでしょう。

参加している人たちも夏の1日を「ふれあいの場」として大いに盛り上げ、その雰囲気を満喫しています。誰もが楽しむことのできる夏まつり、大人と子ども、地域のつながり、この「ふれあい」を大切にこれからもずっと続いて行ってほしいものです。



くすのき自治会——設立早々の夏

1999（平成11）年3月21日、桂坂学区で13番目に誕生したくすのき自治会は、ロータリーから見て北東の方角、古墳公園の上方、桂坂公園の先にある、現在建築中の住宅があちこちに見うけられます。日ごとに自治会員が増加し、将来的には225世帯になるといわれるところで、活気に満ち溢れた雰囲気が漂っています。

この設立間もない自治会が、夏には桂坂公園で夏祭りを実施したのです。隣近所、顔も分からない状態で、初めて自治会員が全員一致協力して行った記念すべき行事です。

当日は数多くの催し物があり、模擬店のたち並ぶ広い公園内には笑顔が溢れ、子どもも大人も挙って楽しい1日を過ごすことができたのですから、世話をなされた役員の方々の産みのご苦労もさぞかし吹っ飛んだことでしょう。

この「一致協力」の実績を財産に、須磨純司会長の話にあるように「住民一人ひとりが意識をもって協力し合い、桂坂の自然環境と調和のとれた美しい町づくりのために、また明るい、安全で快適な居住環境を守るために自治会を発展させて行」かれることでしょう。（「ご挨拶・自己紹介をかねて」『桂坂』62号1999.5.1）

若さみなぎる

区民体育祭

1991（平成3）年10月6日、第1回の「区民体育祭」が学区民の親睦とコミュニケーションの輪を拡げることがを目的に、実行委員会主催で開催されました。

当時は7自治会、約1200世帯。

競技内容は、小学生の徒競走、大人の徒競走、借り物競走、風船割り競争、むかで競争など15種目と盛り沢山でした。

その後は毎年開催され、年とともに自治会数、世帯数も増え、主催も体育振興会に移りました。

昨年の創立10周年記念体育祭は、「第9回桂坂学区民体育祭」。参加自治会も13、約2800世帯と学区も大きく成長しました。

体育祭が盛大になるにつれて競技内容にも変化が出て来ているようです。

桂坂マラソン 加わる

第5回より桂坂4kmマラソンが加わり、自治会対抗の競技には一層力が入ります。50歳以上のざる引き競争にはお孫さんのかわいい声援がとび、2人3脚では大笑い。応援も評価されるとあって、自治会ごとに応援団を中心に趣向



をこらし、トラックで抜きつ抜かれつする選手たちの走りやフィールドでの団体競技に一喜一憂、大きな歓声があがります。多彩なプログラムで爽やかな汗を流し、景品や賞品、最後のラッキーナンバーの抽選も大きな楽しみです。

老若男女を問わず、学区民が一堂に集い、秋の一日を存分に楽しめる体育祭は、明日への活力の素です。

地域のふれあいの場

童心にかえって、走ったり、跳んだり、投げたり、グラウンドではいくつもの感動が生まれます。そして毎年、各自自治会のテントの下では町内同じ弁当をほおぼりながら話に花が咲き、地域にすっかり根差した、地域のためのふれあいの場にふさわしい光景が見られます。



| | 優勝 | 2位 | 3位 |
|--------------|------|-------|-------|
| 1993年 第3回体育祭 | しらかば | あかしあ | かえで |
| 1994年 第4回体育祭 | つばき | しらかば | はなみずき |
| 1995年 第5回体育祭 | しらかば | ほぼら | はなみずき |
| 1996年 第6回体育祭 | しらかば | あかしあ | かえで |
| 1997年 第7回体育祭 | しらかば | あかしあ | つばき |
| 1998年 第8回体育祭 | しらかば | さつき | はなみずき |
| 1999年 第9回体育祭 | しらかば | はなみずき | ほぼら |

生涯スポーツ

体育振興会

体育振興会の発足

桂坂体育振興会は1991（平成3）年4月に発足し、2000（平成12）年でちょうど10年になります。体育振興会（略称「体振」）の活動は、役員のほか、各自治会から2名ずつ選出された体育委員の協力・支援を得て行われています。初代会長は今なき永江望昭氏。現在は布本和久会長のもとで、楽しく和気あいあいとした雰囲気をもっとに活発な活動をしています。

「極小は無にあらす」――

大海に向かって小石を投げると、その小石ぶんだけ大きくなります。また、その投じた小石によって、波紋も生じます。朱を投じても然かり。大海はその分だけ朱色に染まっています。

「スポーツ」という媒体を通じて地域住民の交流を深めるのが趣旨で、体育振興会の活動によって、自治会相互の交流の輪も桂坂全体に広がっています。

永江望昭氏「体育振興会の活動」
（『桂坂』11号1994.6.5）



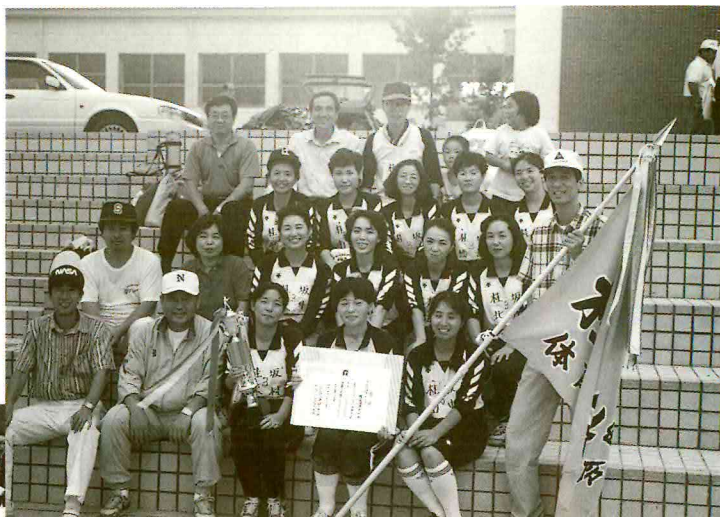
「体振」の年間行事

年間行事としては、一般ソフトボール、男女混合バレーボール、卓球、ボーリング、女子ソフトボール、ソフトテニス、バトミントンの各大会、学区民体育祭など、親睦と連帯の輪を広げることを目的に開催されます。ちなみにソフトボール大会は、学区草創の1989年10月に「もっと親しく、もっと楽しい街づくりをしていきたい」との願いをこめて「親睦ソフトボール大会」と銘打って開催されています。

そして最近、ソフトバレー、ファミリーバトミントンの2つのニュースポーツも加わりました。苦しい練習に耐え技術の向上を目指すのもスポーツですが、より多くの皆さんが参加される、笑顔で楽しめるスポーツこそ生涯スポーツにふさわしく、今後ますます盛んになることでしょう。

活動の幅は、桂坂からさらに西京区へと広がります。

第9回西京区民女子ソフトボール大会では見事に準優勝を果たしました。京都市スポーツフェスティバルにも参加し、1999（平成11）年11月3日には、小学生の男女各1名を含む一般男女混合800mリレーで見事3位に入賞しています。



桂坂学区の同好会

桂坂学区には、学童野球、女子バレー、女子ソフトボール、卓球、バトミントン、グランドゴルフ等の同好会があります。それぞれ練習日を設け、小学校の体育施設を利用して練習に余念がありません。

1999年4月には、桂坂小学校の校庭に夜間照明設備もでき、点灯式が盛大に行われたあと、パープルサンガの選手によるサッカー教室も行われました。

体育館や新たに夜間に開放されるグラウンドは、スポーツを通して地域住民の親睦と健康増進に活用され、桂坂学区の体育の振興に大いに役立っています。



福祉

出会い

京都市では、昭和58（1983）年に策定された「国際障害者年行動計画」に基づき、この緑あふれる桂坂の地に、他には例を見ない総合的福祉ゾーンがつくられました。

この福祉ゾーンには、西養護学校、特別養護老人ホーム（沓掛寮）、障害を持つ人の施設として療護園、更生園、授産園、そして洛西ふれあいの里保養研修センター（ふれあい会館）があります。

子どもやお年寄り、障害のある人にやさしい街は、すべての人にやさしい街です。この地域に住む私たちが、お互い「こんにちは」の挨拶を交わし、バスの席を譲り合う、また、交通手段、段差のある歩道や医療機関などにおいて年老いたときに必要な設備・施設は何だろうと考えてみると、この桂坂という生活空間がより良い、人にやさしい街になるかも知れません。

すべての人々がしがあわせに暮らす、ノーマライゼーションを目指して、同じ地域の住民として互いに理解し合いたいと願っています。

※ ノーマライゼーション

高齢者や障害者が社会的ハンディを負うのではなく、同等の権利、同等の文化を享受できるようにするという考え方。



「ふれあい広場」に、この「カリオン」があるのをご存知でしょうか。時を知らせる鐘です。朝9時に7つの鐘。12時には「憩い」、午後3時には「幸福の鐘」、そして夕方6時には「家路」のメロディで、時を知らせます。

カリオンとは一定数以上のベルが組み合わせられ、しかもメロディが鳴るものをいいます。

この桂坂の土地に棲息し、風を羽一杯に受けて跳ぶキジを造形してあり、「ふれあい」の意がこめられています。風や鐘の音はいつも人々の暮らしのそばにあって、心安らかなひとときを演出してくれます。殺伐とした現代空間や暮らしの中で、人間性豊かな生活を取り戻すそういった願いのもとに製作されたもののようです。

社会福祉協議会

桂坂の社会福祉協議会が発足したのは1991（平成3）年です。社会福祉協議会（「社協」）は法律で定められた民間の福祉団体です。

その活動は、住みなれた街で、弱い立場にある人たちがよりよい暮らしを続けることのできる地域づくりを目指して、さまざまなふれあい活動や在宅福祉サービス、ボランティアの育成などを行ないます。

桂坂の「社協」

桂坂の社協も、高齢者や障害のある方、あるいは子どもたちが、住みなれたこの地域で、より住みやすくなるよう活発な活動を展開しています。

桂坂に在住の障害のある子どもたちとの交流、保護者の情報交換を目的とした「障害のある子どもたちとの集い」や70歳以上の方を対象に「高齢者会食会」を催し、寝たき



りの人および独り暮らし・高齢者世帯の人たちへの「ふとんクリーニングサービス」などを行っています。また、ボランティア活動に役立てようと、「車椅子介助の講習」・「手話教室」・「介護教室」なども実施しています。

桂坂の「社協」は、福祉の充実を図り、桂坂に住む人たちが少しでも生きがいをもち、明るい日常生活が送れるよ

う地道な努力を重ねています。

また、西京区「社協」が法人認可を受けたのを機会に、西京区では、福祉の諸活動をより強力に推進するため「みんなでつろうみんなの福祉」を合言葉に「賛助会員」を募っています。私たちも、一人でも多くの方の理解が得られるよう望みますし、福祉ゆたかな西京、福祉ゆたかな桂坂づくりに協力したいと思います。

在宅介護・社会福祉の相談

桂坂には「社会福祉」の仕事を担当している方がおられ、民生児童委員、主任児童委員、老人福祉員 在宅介護・施設福祉に関してご相談ください。相談内容は、守秘義務があり、絶対口外することはありません。

民生児童委員

木村 順子 ☎332-6060 大枝北杵掛町1・3丁目
サンシティマンションを除く2丁目
南部喜八郎 ☎331-7818 大枝北杵掛町2丁目
[サンシティマンション] 4丁目

酒井 厚 ☎331-8535 大枝北杵掛町5・6・7
丁目御陵大枝山町3・4丁目

山口 和枝 ☎331-7053 御陵大枝山町1・2・6丁目
御陵峰ヶ堂町2丁目

丸橋 晴代 ☎332-2030 御陵大枝山町5丁目・御陵
峰ヶ堂町1・3丁目

民生児童委員（主任児童委員）

奥崎 裕子 ☎331-6808 桂坂学区全域

老人福祉員

涌田早夜子 ☎331-4897 大枝北杵掛町全域

林 休子 ☎394-7567 御陵大枝山町・峰ヶ堂町全域



女性会

1994（平成6）年に誕生した「桂坂学区女性会」は、桂坂の皆様の温かいご協力のもとで地域内での基礎固めを終え、1996（平成8）年4月7日、「桂坂学区地域女性会」として発足以来、4年になります。

京都市内には学区ごとに地域女性会があり、いずれも京都市地域女性連合会に加入しています。この地域女性会は京都市教育委員会社会教育課に属する社会教育団体です。

温もりのある地域づくりをめざし、地域に根ざした活動を第一に、会員同士の和を大切に、共に学び、共に楽しみ、女性としての能力を発揮しつつ社会の中で生活していく、そのための学習の場です。

地域に根ざした活動

活動としては、毎年恒例となっている会員による「作品展と手作りバザー」、そして講習会、見学会など桂坂で行う行事の他に、名月観賞の夕べ、京都まつり、ゆめフェスティバル、洛西ふれあいまつり等に参加するとともに、学区防災訓練の時には避難所における「給食給水」を担当しています。

お茶、手話、歩こう会、歴史探訪、民踊などサークルもあり、女性同士が輪になって共に学び、実践しています。



お茶と手作りバザー

画期的な年に

1999（平成11）年は地域女性会にとって画期的な年となりました。6月より毎月第3土曜日に始めた廃食用油の回収、これは私たちが環境にやさしい生活をしていく上での大切な取組でした。

さらに10周年記念事業として初めて、山の手倶楽部と合同の作品展を開催しました。一つの会場に多彩な作品の陳列は好評のうちに終わり、今後につながる有意義な交流の場となりました。

地域女性会は、会員同士のコミュニケーションはもちろんのこと、地域の方々とのふれあいを大切にしています。



授産園

施設の開設と目的

知的障害者福祉法に基づき、雇用されることが困難な知的障害を持つ人たちが通い、いろいろな作業を通して社会的に自立することを目的としています。

1989（平成元）年6月に事業が開始されました。京都市が設置し、社会福祉法人・京都障害児福祉協会が運営している、いわゆる公立民営の施設です。建物の中はすべてバリアフリーになっています。

18歳以上で、定員は50名ですが、現在54名。設立当時からいる人がほとんどで、平均年齢は28歳です。箱作り、草木染めの糸で織る布、陶芸、クリーニングなどの作業があり、クリーニングの作業場では大きな機械で更生園や療護園のシーツの他に、ホテルやJRからの仕事も引き受けています。地域の人のシーツなどクリーニングも引き受けてもらえるそうです。

ハートプラザ

ここで作られる製品は、ラクセヌのセンターコートで年数回販売されます。JR京都駅ビル9階のハートプラザは常設で、展示販売も行っています。一度のぞいてみてください。

地域社会の一員として

ここでは、地域社会の一員として平等に生活できるよう支援しています。作業も働くことに喜びと生きがいを持つような内容で、一人ひとりの可能性を高め、人間性の豊かさや健康で明るい生活ができるよう配慮されています。

社会のあらゆる分野で活動でき、また、社会的自立と社



会参加を目指す一方で、授産園のもつ機能や設備を活用して地域との結びつきを深めることを基本方針としながら、企業への就職を願い、地道な努力を続けていますが、就職にはまだまだ力不足ということのようです。地域では中のごことが十分わかっていないので、形式だけではない交流を持つようとしてもやはり難しさはあります。

知的障害者に対する心のバリアフリーは難しく思われますが、施設では、「人権を守り、平等に扱い、生活年齢で付き合ってもらいたいし、ボランティア体験、実習もいつでも受け入れる」ということでした。

また、「地域で暮らして行けるよう2年前からマンションを借り、職員と共に4名づつ宿泊し、将来的に社会の一員として生活できるよう実生活の体験もしています。その体験を通して地域に対して何か協力していきたい」ということで、私たちも応援することができれば、と思います。

療護園

デイサービスセンター

日常生活に介護を必要とする重度の身体障害者が、自分の暮らしを築き、充実させていく生活施設です。入所して機能を維持し、機能低下を防ぐためのリハビリ訓練をしながら日常生活を送っています。

1989（平成元）年4月に事業が開始され、入所者50名、ショートステイ4名。1人ひとりの人格を尊重し、地域社会との関わりにおいてもできるだけ自由に暮らせるように援助しています。機能訓練が行われる中で、園の生活を楽

しく豊かにするためにワープロ、七宝焼、スポーツなどいろいろなサークル活動も自主的に行われ、七宝焼の作品などには入所者の頑張りや職員の皆さんの熱意が直に伝わってきます。健康管理は内部の診療所が行っています。

デイサービスセンターは、在宅の重度身体障害者や重症心身障害者が創作活動、軽作業、日常生活訓練などを通して社会参加を促進していくための通所施設です。

日々の活動

日々の活動としては、外出、調理実習、話し合いなどが全体のプログラムと個々のニーズに基づいたプログラムによって実施され、また、園の行事にはクリスマス会や旅行が企画され、地域との交流には、夏まつりや地域行事への参加があります。

障害を持つ人が地域の中で孤立しないで、自立して生活していけることが大切で、散歩や買い物などの外出時に会うことがあれば気軽に声をかけ、挨拶をする「ふれあいの心」をもった人に優しい桂坂の街でありたいものです。



更生園

日常生活に援助を必要とする重度の知的障害者が生活する施設です。1992（平成4）年に開設され、定員は60名。職員は30名。

フローリングの床に白い壁、その壁にマッチしたセンスのよい飾り、食堂のテーブルにはシクラメンが美しく、落ち着いた雰囲気の中で生活は行われています。現在入所している人は、設立当時からの人がほとんどで、高齢化が進んでいます。

生活の場

まずこの施設の中で気持ちよく住めるか、同年齢の人と生活リズムを合わせられるか——一人ひとりの障害の程度に応じたプログラムづくりと特性を活かした仕事・作業内容を考慮し、誰もが満足できる「普通の生活」を目標に設備や園内の生活が工夫されています。つまり施設は「収容の場」ではなく「生活の場」と考えられているのです。

「職」と「住」の分離——具体的には、2階の「職」の作業場から外階段で一旦外に出て、1階の玄関から「住」に帰って来るといった工夫を施すことで、生活にけじめをつけています。大枝に農地を借り、作業所もありますが、作業可能な人はこの園外でも野菜作りなどを行っています。

交流

また、施設だけの生活に終わるのではなく、園に在籍のまま「普通の生活」を行うために「グループホーム」、即ち洛西で寮生活を営み、一緒に食事の用意もします。外出すれば、地域の人たちとのつながりも広がります。桂坂地域では、桂坂小学校の生徒たちとの交流——園の皆さんが紙すきを教え、逆に小学校の運動会に招待されるなどの交流が見られます。

ボランティア

園にはボランティアも訪れます。歌のグループもあれば桂坂地域女性会のように月に1回「繕い物」をするボランティアもあります。

障害をもつ人は、少しの援助があれば「普通の生活」も可能になります。更生園では、園で生活している人と一緒に映画や買い物に外出するガイドヘルパーを必要としています。

私たち桂坂に住む者が園を分かっていないのと同様、施設でも「地域」が見えてこないそうです。そのために「地域の人たちにできるだけ多く園内に足を踏み入れてほしい、地域の中で互いに〈共存〉していきたい」といわれます。

私たちはともすると障害をもつ人たちに対して何かしてあげたいと思いがちです。でもそれは違うのかも知れません。すべての人が「共存」できる社会が望ましく、その社会を作るために桂坂の住民皆で考えてみたいと思います。



西養護学校

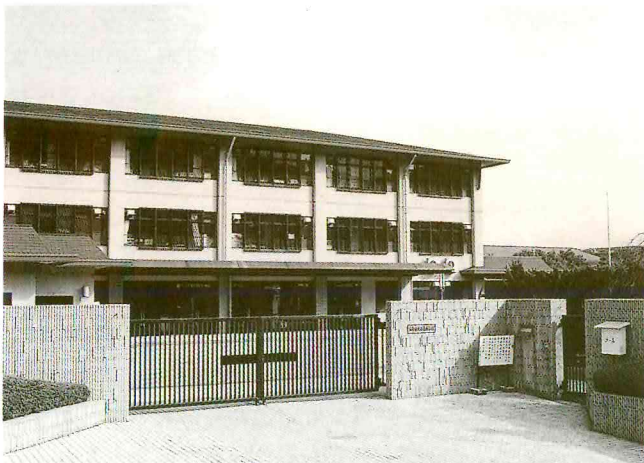
一番早く開設

1986（昭和61）年の4月、洛西福祉ゾーンで一番早く開設されました。当時、周囲は空き地ばかりで交通の便も非常に悪く、孤立した状態でしたが、現在では他の施設や家並みも多く立ち並び、にぎやかになりました。

小・中・高等部あわせて189名の知的障害をもつ児童・生徒が在籍し、職員は108名。スクールバスによる通学ですが、高等部には市バスを利用するなど自主通学をする人もいます。通学区域は堀川以西の児童・生徒です。

今までは東養護学校のみでしたが、洛西ふれあいゾーンに京都府と京都市が共同で設立したもので、西養護学校はよそのコピーをしない、開けた学校がその特色です。

開校時から小人数制を採用し、1学級、1担任、1教室で、児童・生徒の障害や発達に応じた適切な指導を行い、



一人ひとりの可能性を最大限に延ばし、健康で豊かな人間の育成と社会参加を教育目標としています。「世の光になれ」と朝野校長は児童生徒にしているということでした。

各学年の時間割に算数や国語などの教科はなく、小学部ではのびのびと遊び、思い切り好きなこと楽しいことをする時間があります。工作やプール遊び、ゲームなどを通して「自分でやろうという意欲を育てたい」（朝野校長談）ということで、健康な体づくりとともに、基本的な生活習慣を繰り返し学びます。

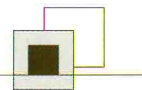
中学部では進んで活動し、自ら選び、高等部では自ら学び、自ら行動することで、園芸、陶芸、紙工、木工などの作業学習を通して卒業後に必要な日常の力を養います。

本人のやる気が自立につながるので、最近では小学部では桂坂周辺、中等部は桂坂から京都駅、高等部は京都市全域に外出して自然に接し、世の中の人たちとふれあい、交流をするよう努めています。

地域との交流

京都まつりにはフラッグ隊で参加しました。地域との交流では、桂坂小学校との交流や、はなみずき自治会の方にピラをお願いして大枝中学校の生徒と作業作品を販売したり、大枝中学校の生徒と交流をしています。休日には運動場の開放、洛西ふれあいまつりの時は施設開放をしています。高等部1、2年では桂坂児童館や保育所、コミュニティプラザのメンテナンスに行っています。人の目に接することでその子の意外な面を発見することもあるそうです。

今後、学校所在の地域とのかかわりを大いに持つことを願ってられます。学校内だけでなく桂坂全体が子どもたちにとっては学習の場かも知れません。桂坂の子どもたちと同様に西養護学校の子どもたちも元気に学び、健やかに育ってほしいと思います。



地域に開かれた診療を目指して

沓掛寮内科診療所

1998（昭和63）年12月21日より、沓掛寮一階の南西角に「内科診療所」が開かれています。

この施設は、地域の医師会や地元の協力を得て、沓掛寮に生活する人はもとより、地域に住む私たちをも対象とするものです。

診療の日と時間は

月曜日～土曜日（日・祝日は休診）午後1時～3時

福祉の面でも医療の面でもその意義は大きく、開所以来、多くの利用者があります。



ふれあい会館

ふれあい会館は市政 100周年記念事業の一環として1994（平成6）年に開設されました。保養のための宿泊施設と福祉のための研修施設という2つを兼ね備えているのが大きな特徴です。

宿泊施設には電動ベッドの備えられた部屋があり、バスやトイレが車椅子でも使いやすくなっているなど、何かにつけて高齢者や障害のある人が安心して利用できるよう配慮されたところの、日本でも数少ない施設です。

研修施設としては、介護支援の専門員養成など研修事業を実施するとともに、相談にものり、情報提供も積極的に行っています。

ふれあい会館は、高齢化が進む中で、施設中心の福祉から在宅地域福祉へというニーズに応え、「地域」と深くかわっていくパイプ役を果たしていますし、また、「子どもの頃のふれあいは生涯を左右する」という考えのもとに体験学習ができる場を企画したり、指導者の養成・研修にも力を入れています。

地域の私たちの健康維持を目的とした体力・骨密度の測

定などを行う健康増進室があり、健康増進室と研修室の利用者は大浴場（料金 250円）でリフレッシュできます。ほかにいくつかの教養・文化サークルも設けられています。

ふれあい交流の場

高齢者から子どもまで3世代が関わる街づくり——福祉の街づくりを、ボランティアの人や地域のサークルの人たちと一緒に、みんなで盛り立て支援する「ふれあい交流の場」としての役目を、この会館は担っています。



特別養護老人ホーム

——沓掛寮



この老人ホームは、緑豊かな自然に囲まれた桂坂の地に1987（昭和62）年4月に、50床で開設されました。

お年寄りがいま明るく快適な生活を送り、そして、年をとって体が不自由になってもお年寄りにあたたかな心の連携によって生きる喜びを与えること、これが沓掛寮の願

で、地域の福祉の向上を図るとともに、お年寄りの方々が安心して暮らすことのできる生活の場を提供しています。

お花見、買い物ツアー、納涼大会、運動会のほか1年間を通じて盛りだくさんの行事が企画されています。家族にとって安心して任せられる短期入所のショートステイもあります。1992（平成4）年には85床に増床され、現在の定員は長期が85人、短期8人の合計93人です。

デイサービスセンター

1991（平成3）年4月にはデイサービスセンターが開設されました。

利用する人は、1日15人以上。概ね65歳以上で、身体的な障害があるために日常生活を営むのに支障のあるお年寄りが通っておられます。

センターでは、生活するのに必要な訓練や入浴サービス等を提供することによって心身の機能向上を図るとともに、友達づきあいの交流の中で社会的な孤立感から解放され、生きる喜びを得ることができます。

このデイサービスはさらに、お年寄りを介護される家族の苦労を少しでも軽減緩和しようという目的もち、さらに、地域の方々の介護に関する悩みや不安などの相談に応じる「在宅介護支援センター」も併設されています。

ふれあい 出会いの 輪

桂坂地域での福祉施設の諸行事

桂坂地域では、福祉施設の催しが1年を通じて色々行われます。例えば、「洛西ふれあいまつり」、ふれあい会館主催の「ふれあい会館フェスタ」、ふれあいの里授産園の「陶器まつり」、ふれあいの里療護園主催の「夏祭り」などです。

これらの行事は多くのボランティアの人たちによって支えられています。会場のふれあいの里広場には、施設の紹介コーナーが設けられ、自主作品の販売、体験コーナー、フリーマーケット、ステージ発表会、保護者会のバザーなど催し物は多彩で、桂坂はいうに及ばず、洛西地域、京都市内の子どもから大人まで、多くの人たちで賑わいます。

あちこちで「いい感じのふれあい、出会い」が見られ、それぞれ楽しい1日を過ごします。一人でも多くの方の理解が得られ、互いに励まし合いながら、自然体でいきたいものです。



授産園の陶器まつり



療護園の夏まつり



洛西ふれあいまつり

